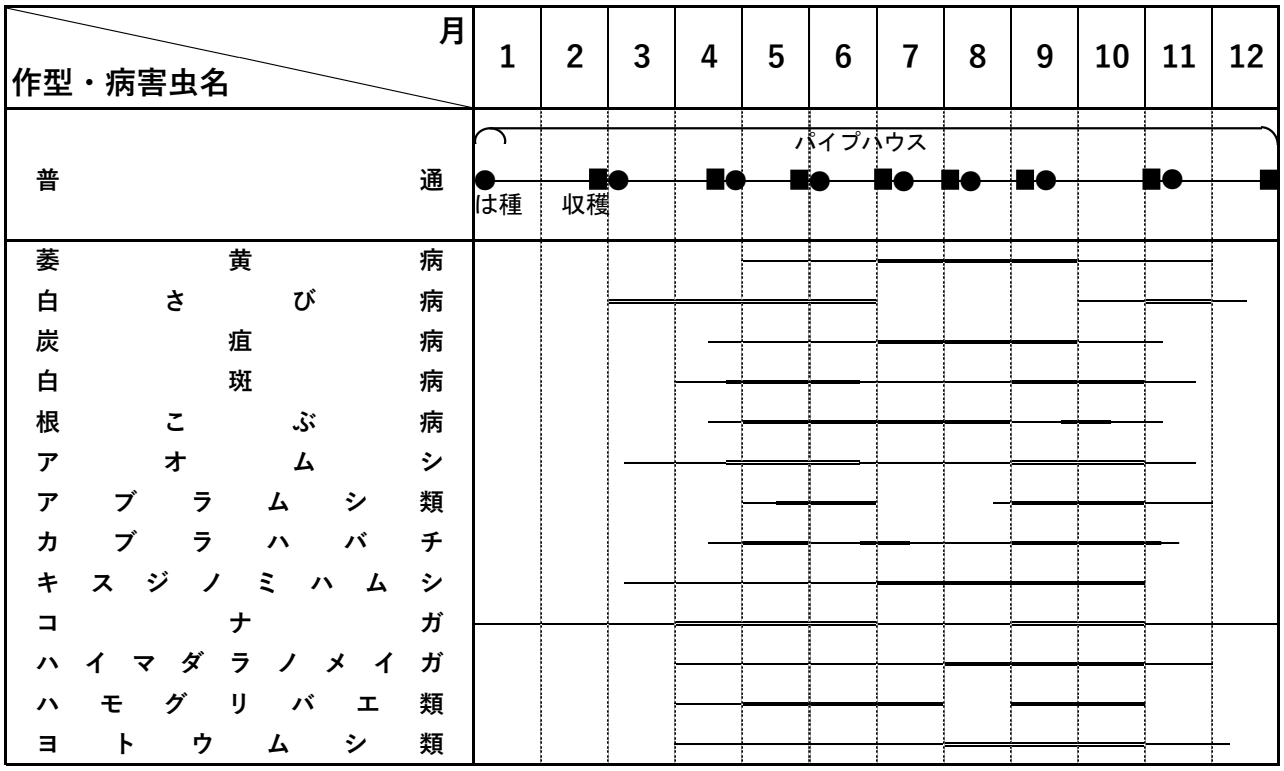
チンゲンサイ

「チンゲンサイ」には、「チンゲンサイ」「非結球あぶらな科葉菜類」「葉菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。（非結球あぶらな科葉菜類の項目参照）



萎黄病

留意事項

1 病原菌は根に侵入し、道管に沿って下から移動するため、葉の黄化も下から進行する。
2 株元を切断すると、維管束が変色していることがある。
3 根傷みによって発生が助長される。

防除方法

1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
2 排水を良好にする。
3 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（ⅩⅢ土壌消毒　参照）

・キルパー 一

【原液として60L／10a　所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆するは種または定植10日前／1回】

4 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

白さび病

留意事項

1 比較的涼しく、湿度が高い時に発生が多い。

防除方法

1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
2 密植を避け、通風をよくする。
3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
4 下記の薬剤を施用する。
・ユニフォーム粒剤 4 11【9kg／10a　全面土壌混和　定植前／1回】
・リドミル粒剤2 4【9kg／10a　全面土壌混和　は種時または定植時／1回】
5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・アミスター20フロアブル 11【2000倍　7日／2回】

炭疽病（たんそびょう）

留意事項

1 降雨が多く、気温が高い時期に発生が多い。
2 進展がきわめて速いため、発生初期の抜き取りが重要である。

防除方法

1 わら、またはポリフィルムなどでマルチングする。
2 被害株は速やかにほ場外へ持ち出し適切に処分する。
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ベンレート水和剤 1【4000倍　7日／1回】

白斑病

留意事項

1 降雨が多い秋期に発生が多い。

防除方法

1 密植を避け、通風をよくする。
2 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ベンレート水和剤 1【4000倍　7日／1回】

根こぶ病

留意事項

1 日照時間が長い時に発生しやすい。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 酸性土壌で排水不良のほ場に発生が多い。

防除方法

1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
2 排水を良好にする。
3 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
4 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（ＸⅢ土壌消毒　参照）
・バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 劇 [－]
【30kg／10a　は種または定植21日前／1回】
5 は種前に下記の薬剤を施用する。
・ネビリュウ [３６]
【20kg／10a　は種前／1回　作条土壌混和】または
【20～30kg／10a　は種前／1回　全面土壌混和】
6 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

アオムシ

留意事項

1 幼虫による被害は春と秋に多い。
2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
3 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
3 定植前日～当日に下記の薬剤を施用する。
・モスピラン粒剤 [４Ａ]【0.5g／株　株元散布　定植前日～定植当日／1回】
4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・アファーム乳剤 [6]【1000～2000倍　3日／3回】
・ディアナSC [5]【2500～5000倍　前日／2回】
・ＢＴ剤 [１１Ａ]（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

アブラムシ類

留意事項

1 ウイルス病を媒介する。
2 少雨のときに多発しやすい。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により、被害軽減に努める。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 は種時～定植時に下記の薬剤を施用する。

・モスピラン粒剤 ４Ａ
【0.5g／株　株元散布　定植前日～定植当日／1回】または
【3kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】

・ジェイエース粒剤、スミフェート粒剤 １Ｂ
【3～6kg／10a　作条散布後土壌混和　定植時／1回】

・スタークル粒剤、アルバリン粒剤 ４Ａ【6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】

2 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。

・アクタラ顆粒水溶剤 ４Ａ【2000倍　3日／2回】

・ダントツ水溶剤 ４Ａ【2000～4000倍　7日／3回】

・ランネート45DF 劇 １Ａ【1000倍　14日／2回】

カブラハバチ

防除方法

1 密植を避け、通風をよくする。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ４Ａ【4000倍　7日／1回】

・スカウトフロアブル 劇 ３Ａ【2000倍　7日／2回】

キスジノミハムシ

留意事項

1 高温乾燥が続くと発生が多くなる。

2 スタークル粒剤・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン粒剤・アルバリン顆粒水溶剤の成分ジノテフランの総使用回数は3回以内（但し、は種時および定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内）。

防除方法

1 シルバーマルチを利用する。

2 は種時～定植時に下記の薬剤を施用する。

・スタークル粒剤、アルバリン粒剤 ４Ａ
【6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】または
【6kg／10a　土壌混和　定植時／1回】

・モスピラン粒剤 ４Ａ 【0.5g／株　株元散布　定植当日／1回】

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ４Ａ 【2000倍　3日／2回】

・パダンSG水溶剤 劇 １４ 【1500倍　7日／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

コナガ

留意事項

1 葉裏に網のような繭をつくって蛹になる。
2 春～初夏、秋の発生が多い。
3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 は種時に下記の薬剤を使用する。
・モスピラン粒剤 ４Ａ
【0.5g／株　株元散布　定植前日～定植当日／1回】または
【3kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・アファーム乳剤 ６【1000～2000倍　3日／3回】
・ディアナSC ５【2500～5000倍　前日／2回】
・フェニックス顆粒水和剤 ２８【2000～4000倍　前日／2回】
・コテツフロアブル 劇 １３【2000倍　7日／1回】
・パダンSG水溶剤 劇 １４【1500倍　7日／3回】
・ＢＴ剤 １１Ａ（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

ハイマダラノメイガ

留意事項

1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ディアナSC ５【2500～5000倍　前日／2回】
・フローバックDF １１Ａ【1000倍　発生初期（前日）／－】

ハモグリバエ類

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 定植時に下記の薬剤を施用する。
・アクタラ粒剤5 ４Ａ【6kg／10a　作条混和　定植時／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ディアナSC 5【2500～5000倍　前日／2回】
・トリガード液剤 １７【1000倍　7日／2回】
・パダンSG水溶剤 劇 １４【1500倍　7日／3回】

ヨトウムシ類

留意事項

1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。
2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ディアナSC 5【ヨトウムシ　2500～5000倍　前日／2回】
・スカウトフロアブル ３Ａ【ヨトウムシ　2000倍　7日／2回】
・フェニックス顆粒水和剤 ２８【ハスモンヨトウ　2000～4000倍　前日／2回】
・ＢＴ剤 １１Ａ（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。